

竹田三正 （幼名） 劇作家、俳人。明治四十四年生れ、昭和十四年一月八日歿（一九二一元）。俳號三生。文化學院文學部卒。既に中學時代、岡本綺堂の師事して作品を書いたといふ。昭和五年戯曲「奴清が争議を起した話」（『齒車』十（一月號））を發表。また中久保信成、青木滋（青地農）、成田讓（秀紀）、野口富士男等の同人雜誌、第一期『現實・文學』の「聲なき抗議」（昭和六年一月號）、「殘滓」（七年五月號）、「凍る」（九年三月號）等の戯曲や評論を書き、同人と云つた。十一年から歿時までは句作の勵み、俳誌『山茶花』、『馬酔木』、『葛飾』の役句。

『竹田三正遺稿集』（多田栄一編、昭和十五年（二月）二十五日山本静子刊）には、評論「受難の町人文學」の他、日記、野口富士男宛書翰集を収録、野口の跋文がある。次『竹田三生句集』（永田駿三・小林康治編、昭和十五年（二月）二十日山本静子刊）が纏められた。

